

琉球新報 平成24年7月10日(火)

植物でプラスチック

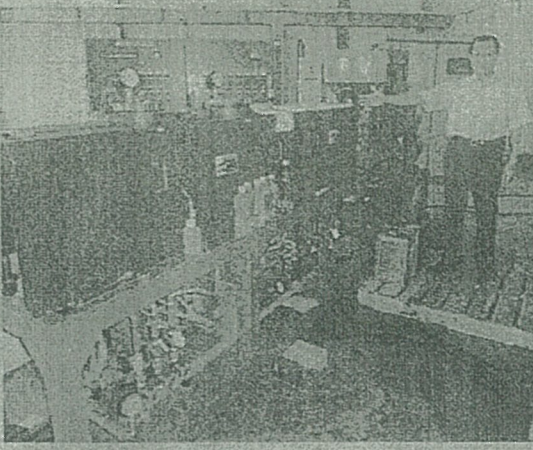
県内初 沖縄PLA、9月稼働

県内初となる植物由来の主成分性プラスチックを製造する沖縄PLA(安田製糖)がうるま市州崎の国際物流拠点産業集積地域(旧特別自由貿易地域)内にある製糖工場に入居し、本格稼働に向けて準備を進めている。4年後の売上高は31億6800万円を計画。初年度6、7人を雇用し、将来的には約30人体制を目指す。

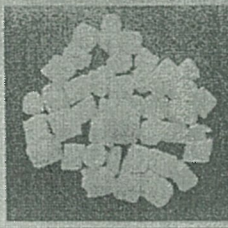
原料でんぷん、低価格

主原料はパレイシヨのでんぷんで、グリセリンと水を混ぜて独自に開発した機器で製造する。パレット(球型)状に加工し、ビニール袋などの素材として中国など海外に輸出する。

でんぷんは海外から購入する場合、高い関税が付くが、保税が認められる国際物流拠点産業集積地域を活用し、低価格化につなげる。現在、関税の徴収が留保されたまま、加工・製造



国際物流拠点産業集積地域(旧特別自由貿易地域)内にある製糖工場に入居し、本格稼働に向けて準備を進めている。



パレイシヨのでんぷんを主原料としたPLA(植物由来のプラスチック)の製品。